

ダニエル書 - 第31番

アメリカへの警告：今日におけるダニエルの解釈の意義

Jeff Pippenger

2023-12-26

壁に書かれた文字と、ベルシャツアルへのダニエルの解き明かしは、背教に陥ったアメリカ合衆国の共和主義の角とプロテスタントの角の双方に対する最終的な宣告を表している。アメリカ合衆国の建国の父たちとアドベンチズムの先駆者たちの初期の歴史は明確に記録されているが、そこに含まれる教訓と警告は「四世代」にわたって脇に置かれてきた。ベルシャツアルはこの真理を完全に表している。

世代がどれほどの期間に当たるかを定めるために、正確な期間を定義する必要はない。なぜなら、神の御言葉は決して失敗することがなく、神がご自身の啓示された御心に反逆した諸国民に対して帳簿を閉じられるのは四代目であるとはっきり語っているからである。

神はこれらすべての言葉を語って言われた。「わたしは主、あなたの神であり、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出した者である。あなたはわたしのほかに、ほかの神々をあってはならない。あなたのために、上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、いかなる刻んだ像も、どのような形の像も造ってはならない。あなたはそれらにひれ伏してはならない。それらに仕えてはならない。主であるわたし、あなたの神は、ねたむ神であり、わたしを憎む者の子らに、父の咎を三代、四代にまで及ぼし、また、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千の者に慈しみを示す。」出エジプト記20章1節。

最後の世代、すなわち古代イスラエルの預言的な「第四世代」において、バプテスマのヨハネもキリストも、その世代を「まむしの子ら」と呼んだ。

まむしの子らよ、あなたがたは悪い者でありながら、どうして良いことが言えようか。心に満ちていることを口が語るのである。善い人は心の善い宝から善いものを取り出し、悪い人は心の悪い宝から悪いものを取り出す。しかし、あなたがたに言う。人は自分が語るあらゆるむだな言葉についてさえ、裁きの日にはそのことについて言い開きをしなければならない。人は自分の言葉によって義とされ、自分の言葉によって罪に定められる。マタイによる福音書12章34-37節。

地の獣の最後の世代において、それは竜（毒蛇）のように語る。1863年以降、日曜法に至るまで、共和主義の角はアメリカ合衆国憲法から背を向けてきた。神がこの国に授けた祝福は、市民と指導者の心を、彼らが享受するようになった富と繁栄を生み出した原則を守るという責務からそらし、彼らは、その後自分たちを誘惑することを許した富と繁栄を生み出した神聖な文書を作成するにあたって建国の父たちを導いた動機を忘れてしまった。彼らはその神聖な文書の目的を忘れただけでなく、その文書に含まれている原則を保持する責任も忘れた。

1863年から日曜法に至るまで、真のプロテスタントの角（アドベンティズム）は、ウィリアム・ミラーの奉仕を通して神によって確立されたその基礎的真理から離れてきた。神がアドベンティズムに授けた祝福は、市民と指導者たちの心を、彼らが享受するようになった霊的富を生み出した原則を守る責務からそらせ、彼らは、彼らが守り宣べ伝えるべき預言的富を確立することを意図して二つの聖なる図表に示されたメッセージを生み出した先駆者たちの目的を忘れてしまった。

主がシナイ山で古代イスラエルと契約を結ばれたとき、主は十戒が刻まれた二つの聖なる石板をお与えになり、それはご自分の民との契約関係のしるしとされた。年ごとの祭りを制定されたときには、ペンテコステに二つのパンの供え物を掲げてささげるよう命じられた。二つのパンの揺り動かしてささげる供え物は、聖所の奉仕における供え物の中で、唯一、その準備にパン種（人間の罪、悪意、邪悪、偽善の象徴）を含めるよう定められていた。

あなたがたの誇りは良いことではない。わずかなパン種が生地全体をふくらませることを知らないのですか。だから、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたが新しい生地となるために——あなたがたは実際、無酵母なのですから。私たちの過越の小羊であるキリストが、私たちのためにささげられたのです。ですから、古いパン種でも、悪意と邪悪のパン種でもなく、誠実と真理の無酵母のパンをもって、祭りを守りましょう。コリント人への第一の手紙 5:6-8。

その間に、数えきれないほどの群衆が集まり、互いに踏みつけ合うほどになったとき、彼はまず弟子たちに言い始めた。「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。それは偽善である。」ルカ 12:1。

揺り動かす供え物として掲げられた二つのパンは、十四万四千人の旗印を象徴していた。彼らは罪人ではあるが、神の力によって、悪意・邪悪・偽善というパン種を清め取り除いた人々であった。パンの中にあったパン種は人間（罪人）を表しており、その人々は、マラキ書三章において契約の使者のかまどの火によって「焼かれる」と表現される清めの過程を経て、罪に打ち勝った者たちであった。これらのパンはまた「天からのパン」をも表していた。なぜなら、献げられる際には、揺り動かす供え物として天に向かって掲げられることになっていたからである。

五旬節の日に、長年にわたり五旬節の祭りでささげられてきた二つのパンの予表が成就したとき、キリストの弟子たちは、異邦人の世界からもう一つの群れ（第二のパン）を召し出す働きを始めた。こうして、二つのパンはどちらも罪（パン種）から清められたものとなった。

十戒の二枚の石板は古代イスラエルの契約関係の象徴となり、揺り動かすささげ物としての二つのパンは初代キリスト教会との契約関係を表している。地から上がってくる獣の歴史の初めに、現代イスラエル、すなわち真のプロテスタントの角との契約関係の象徴として、ハバクク二つの聖なる板が与えられた。ちょうど、神聖な憲法が共和主義の角に与えられたのと同様に、主はいま、十四万四千人に強力な軍勢として立ち上がるよう召しておられ、彼らがそうすると、七倍に熱せられた炉に投げ込まれるとき、彼らは揺り動かすささげ物（旗印）として掲げられる。

その旗印は十戒の律法を表し、また、天の生けるパンを傍らにして炉の火の中を歩む者たちをも表し、さらに、ハバククの二つの聖なる板に象徴された根本的な教えを堅持する者たちも表している。これらの象徴はいずれも、黙示録十一章の二人の証人において表されている。

ベルシャツアルに下った裁きは、地の獣の二本の角に対する証言を表している。その裁きの時、一人の女（教会）がいて、王国でその手書きの文字を読み取り、解き明かすことのできるただ一人の男はダニエルだと理解していた。

私はあなたについて、解き明かしを行い、疑問を解くことができると聞いている。今、もしあなたがその文字を読み、その意味を私に知らせることができるなら、あなたには緋色の衣を着せ、首に金の鎖を掛け、この王国で第三の位に就かせよう。するとダニエルは王の前で答えて言った。「贈り物ご自身でお持ちになり、報酬はほかの者にお与えください。しかし私は王にその文字を読み、その解き明かしをお知らせします。」

おお王よ、いと高き神はあなたの父ネブカドネザルに、王国と威厳と栄光と誉れをお与えになった。神が彼にお与えになったその威厳のゆえに、あらゆる民、諸国、諸言語の者たちは彼の前におのき恐れた。彼は望む者を殺し、望む者を生かし、望む者を高め、望む者を低くした。しかし、彼の心が高ぶり、思いが高慢によってかたくなになったとき、彼は王座から退けられ、栄光は彼から取り去られた。彼は人の子らの中から追い出され、その心は獣のようにされ、住まいは野ろばとともにあり、牛のように草を食べ、からだは天の露で濡れた。いと高き神が人の国を統べ治め、ご自分の望む者をその上に立てられることを彼が悟るに至るまで。

そしてその子ベルシャツアルよ、あなたはこれらすべてを知っていながら、心を低くしなかった。むしろ天の主に対して身を高ぶらせ、彼らはその家の器をあなたの前に持って来た。あなたとあなたの貴族たち、あなたの妻たちと側室たちは、それらでぶどう酒を飲み、見ることも聞くことも知ることできない銀や金、青銅、鉄、木、石の神々をほめたたえた。しかし、あなたの息はその御手のうちにあり、あなたのすべての道はその御手のもとにある神を、あなたは栄光に帰さなかった。そこで、その方から手の一部が遣わされ、この書き物が記された。記された文字はこうである。MENE, MENE, TEKEL, UPHARSIN. その言葉の解き明かしはこうだ。MENE-神はあなたの王国を数え、これを終わらせた。TEKEL-あなたは天秤で量られ、不足ありとされた。PERES-あなたの王国は分割され、メディア人とペルシア人に与えられた。

するとベルシャザルが命じ、彼らはダニエルに緋の衣を着せ、首に金の鎖をかけ、彼を王国の第三の支配者とすることを布告した。その夜、カルデヤ人の王ベルシャザルは殺された。そしてメディア人ダリウスが王国を受け継ぎ、年はおよそ六十二歳であった。ダニエル 5:16-31。

アメリカ合衆国で日曜法が施行される時、国にとっても、背教した共和党の角と背教したプロテスタントの角にとっても、不義の杯と猶予の時の杯が満ちる。というのも、神は（第六の）王国を「数え上げ」「これを終わらせた」からである。両方の角も、この国も、（聖所で行われている裁きの）天秤で「量られ」「不足ありと見出される」。その時、内戦と専制が生じる中で、アメリカ合衆国は「分割され」、そして聖書の預言における

第七と第八の王国に引き渡される。

アモリ人について主は言われた。「第四代に至って、彼らは再びここに戻って来る。アモリ人の罪はいまだ満ちていないからである。」この民は偶像崇拜と墮落のゆえに際立っていたが、その罪の杯はまだ満ち切っておらず、神は彼らをことごとく滅ぼすよう命じられなかった。人々が言い逃れの余地を残さないよう、神の力が顕著なかたちで現されるはずであった。憐れみ深い創造主は、第四代に至るまで彼らの罪を忍耐することをよしとされた。そのときになってもなお良い方向への変化が見られなければ、神の裁きが彼らに下ることになっていた。

寸分の狂いもない精確さで、無限なるお方は今なお、すべての国々に対して勘定をつけておられる。悔い改めへの呼びかけとともにその憐れみが差し伸べられている間は、この勘定は開いたままである。しかし、その数字が神の定めた一定の額に達すると、神の怒りの執行が始まる。勘定は締められる。神の忍耐は尽きる。彼らのために憐れみを嘆願することは、もはやない。

予言者は、世々を見渡し、彼の幻にこの時代が示された。

この時代の諸国民は、かつてない慈しみを受けてきた。天の祝福のうち最も選りすぐりのものが彼らに与えられたが、増し加わる高慢、貪欲、偶像礼拝、神への侮蔑、卑しい忘恩が彼らに対して記されている。彼らは神との清算を急速に迎えつつある。

しかし、私を震え上がらせるのは、最も大きな光と特権を与えられてきた者たちが、はびこる不義によって汚されてしまったという事実である。周囲の不義の者たちに影響されて、真理を告白する者でさえ多くが冷え込み、悪の強い潮流に押し流されている。真の敬虔と聖さに広く浴びせられる嘲りは、神と密接に結びついていない者たちから、神の律法への畏敬を奪う。もし彼らが光に歩み、心から真理に服しているなら、この聖なる律法は、このように侮られ退けられるときにこそ、彼らにはいっそう尊く思われるはずである。神の律法への軽蔑がいよいよ明白になるにつれて、それを守る者たちと世との間の境界線はいっそう鮮明になる。神の戒めへの愛は、ある者たちの間では増し加わり、別の者たちの間でそれらへの軽蔑が増すのに応じて高まっていく。

危機は目前に迫っている。急速に膨張する数値は、神の訪れの時がいよいよ来ようとしていることを示している。神は罰することを厭われるが、それでも罰し、それも速やかに。光のうちを歩む者は、近づく危険のしるしを見るだろう。しかし彼らは、神が訪れの日にご自分の民を守ってくださるという信念で自らを慰め、滅びを静かに、無関心のまま待ち受けて座してはならない。決してそうではない。彼らは、神の助けを強い信仰をもって仰ぎつつ、他の人々を救うためにたゆまず働くことが自分の務めであると悟るべきである。「義人の切なる祈りは大いに力がある。」

敬虔のパン種は、完全にその力を失ってはいない。教会に危機と落胆が最も深まるとき、光のうちに立つ小さな群れは、この地で行われている忌むべき行いのゆえに嘆き叫ぶであろう。だが、とりわけ彼らの祈りは教会のためにささげられる。というのも、その信徒たちが世のならいにならって行動しているからである。

この忠実な少数者の切なる祈りは、むなしくはならない。主が復讐者として出て来られる時、主はまた、信仰を純粋なままに保ち、この世から汚れのない者として自らを

守ってきたすべての者の守り手としても来られる。まさにこの時、昼も夜も神に向かって叫び求めるご自分の選民のために、たとえ彼らに対して長く忍耐しておられるとはいえ、神は復讐すると約束しておられる。

命令はこうである。「町のただ中、すなわちエルサレムのただ中を通り、その中で行われているすべての忌むべきことのゆえに嘆き、叫ぶ者たちの額にしるしを付けよ。」このように嘆き、叫ぶ者たちは、いのちの言葉を掲げていた。彼らは戒め、忠告し、懇願した。神の名を汚していた者の中には、悔い改めて御前に心を低くした者もいた。しかし、主の栄光はイスラエルから去っていた。多くの者がなお宗教の形式を守り続けていたが、主の力も御臨在も欠けていた。『証言』第5巻、208-210。

ベルシャザルの前に立ったダニエルに象徴される者たちのうち、「Future for America」を知っている者たちは、そのときダニエルの「緋の衣」と「金の首飾り」を受け、「王国の第三の支配者」と宣言されるだろう。緋色は、父の相続の二倍の分け前を受ける長子を象徴する色であり、その長子とは十四万四千人である。

彼らは女に汚されておらず、童貞である。彼らは小羊が行くところならどこへでも従う者たちである。彼らは人々の中から贖い出され、神と小羊にささげられた初穂となった。黙示録14:4

旗のように掲げられる二つのパンのうち、手に緋の糸を付けられるのは長子（初穂）である。

そして、彼女が産みの苦しみをしていたとき、ひとりが手を出した。助産婦は緋の糸を取り、それをその手に結びつけて、「これは先に出た」と言った。ところが、彼が手を引っ込めると、見よ、その兄弟が出てきた。彼女は言った。「どうして破って出たのか。この破れはあなたのものだ。」それゆえ、彼の名はペレツと呼ばれた。その後、手に緋の糸をつけていた彼の兄弟が出てきて、その名はゼラと呼ばれた。創世記 38:28-30

聖書で「緋色」が最初に言及されるのは、ユダが父となった双子のうち、長子で、その名が「昇る光」を意味する「Zarah」が最初に生まれ出たときである。母の「Tamar」（遊女のふりをしたことがある）は、ユダの亡くなった邪悪な息子の妻であった。「昇る光」であるZarahはユダ族の出で、その手には緋色の糸が巻かれていた。「Pharez」は「破って出る」という意味で、彼は日曜法の危機のさなかに教皇制から離れ、バビロンから出てくる者たちを表している。

「緋色の線」は、エリコの町が滅ぼされたとき、エリコの娼婦を守ったしるしでもあった。

「見よ、私たちがこの地に入るとき、あなたは、あなたが私たちを下ろしたあの窓に、この緋色のひもを結び付けなさい。また、あなたの父と母と兄弟、そして父の家の者すべてを、あなたの家に連れて来て、あなたのもとに置きなさい。あなたの家の戸口から外へ出て通りに行く者は誰であれ、その血の責めはその者の頭に帰し、私たちには咎はない。だが、あなたと共に家の中にいる者は誰であれ、もし彼に手が下されることがあれば、その血の責めは私たちの頭に帰す。さらに、もしあなたがこの私たちの事を漏らすなら、あなたが私たちに誓わせた誓いから、私たちは免れる。」 彼女

は「あなたがたの言葉どおりにしましょう」と言った。そして彼女は彼らを送り出し、彼らは去って行った。彼女は緋色のひもを窓に結び付けた。ヨシヤ記2章18-21節。

ダニエルの緋の衣は、その時点で彼が十四万四千人を象徴していることを示しており、彼らは掲げられる二つの揺り供えのパンのうち第一のものである。彼らはパンとして、天からのパンである方を表している。その方は十字架に向かう途上、官邸の広間で緋の衣を着せられた。ベルシャザルの宴会の広間は、イエスが緋の衣を着せられた官邸の広間の型であり、「Future for America」で間近に迫る危機を理解している者たちに、緋の衣が与えられる。

そのとき、総督の兵士たちはイエスを総督官邸に連れて行き、部隊全員を彼のもとに呼び集めた。彼らは衣服を脱がせ、緋色の衣を着せた。マタイ 27章27、28節

ダニエルに代表される者たちに与えられる衣は、キリストの義の衣であり、それは白いものです。

喜び楽しみ、彼に栄光を帰そう。小羊の婚礼の時が来て、花嫁は自ら備えを整えたからである。また、彼女が清く白い細布を身にまとうことが許された。というのは、その細布は聖徒たちの義であるからだ。ヨハネの黙示録 19:7、8。

ダニエルに象徴される者たちに与えられる衣は、緋色でもあり白でもある。というのも、彼らの衣は、マラキ書第3章の洗濯人がレビの子らを清めるときに、洗濯人の石鹼で洗われたからである。

しかし、彼の来られる日に耐えうる者は誰か。彼が現れるとき、誰が立っていられようか。彼は精錬する者の火、洗濯する者の灰汁のようだからである。彼は銀を精錬して清める者として座し、レビの子らを清め、彼らを金や銀のように精錬し、彼らが主に義なるささげ物をささげることができるように。マラキ 3:2、3。

その衣は白いが、それはただ子羊の緋色の血で洗われたからにすぎない。

また、忠実な証人、死者の中から最初に生まれた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、私たちを愛し、ご自分の血によって私たちを罪から洗い清め、私たちを、ご自身の神であり父である方に仕える王と祭司としてくださった方に、栄光と支配が世々限りなくありますように。アーメン。ヨハネの黙示録 1:5、6。

黄金の鎖への最初の言及は、ヨセフがエジプトの指導的地位に任命されたときである。

ファラオはヨセフに言った。「見よ、わたしはあなたをエジプト全土の上に立てた。」ファラオは自分の手から指輪を外し、それをヨセフの手にはめ、上等の亜麻布の衣を着せ、彼の首に金の首飾りを掛けた。そして彼を自分の第二の車に乗せ、彼の前で「ひざまずけ」と叫ばせ、こうして彼をエジプト全土の支配者とした。ファラオは自分の手から指輪を外し、それをヨセフの手にはめ、上等の亜麻布の衣を着せ、彼の首に金の首飾りを掛けた。創世記 41:41-43。

ヨセフがファラオによってエジプトの支配者に任命された理由は、ヨセフが「東風」の破壊的な突風に関連して、「七回」に関するファラオの夢を解釈できたからである。

ファラオはヨセフに言った。「私が見た夢では、私は川の岸に立っていた。すると、川から七頭の雌牛が上がってきた。肉付きがよく、見た目もよい雌牛で、草地で草を食べていた。するとその後から、貧相で非常に見苦しく、やせ細ったほかの七頭の雌牛が上がってきた。あれほどひどい雌牛は、エジプトの全地で見たことがない。すると、そのやせて見苦しい雌牛が、最初の肥えた七頭の雌牛を食べてしまった。ところが、それらが食べてしまっても、まるで食べなかったかのように、初めのおり見苦しいままだった。そこで私は目を覚ました。それから、夢でまた見た。すると、一本の茎に、実が詰まって良い七つの穂が出てきた。ところが、その後から、しなびて細く、東風に焼けた七つの穂が出てきた。そして、その細い穂が良い七つの穂を飲み込んだ。私はこれを呪術師たちに話したが、誰もそれを私に解き明かすことができなかった。」ヨセフはファラオに言った。「ファラオの夢は一つです。神は、これから行おうとしていることをファラオにお示しになりました。」創世記41章17-25節。

ヨセフは「line upon line」という原則に基づいてファラオの夢を解釈した。というのも、まず二つの夢は一つであるとファラオに告げたからである。次に彼は、「雌牛」と「穂」に関連している「七」という語を、象徴として解釈した。この箇所「七」という語は、レビ記二十六章で「七倍」と訳されている語と同じである。ヨセフはその「七」を、七年、すなわち二千五百二十日を象徴するものとして解釈した。ヨセフもダニエルも、レビ記二十六章の「七倍」の象徴を解釈していた。

ファラオの夢では、飢饉は穀物の穂が「東風に焼き枯らされ」たことによって生じた。ヨセフが直接用いているとおり、「行に行を重ねる」方法で読むと、「東風」は、ヨセフとダニエルが黄金の首飾りを授けられるときに始まる飢饉と経済崩壊の時期をもたらすのがイスラムであることを示している。これは、世界（ヨセフのエジプト）に対して旗印を掲げること、そして（ダニエルの）バビロンから神のほかの群れを呼び出すことを表している。

アメリカ合衆国の二本の角は、聖書の預言において二つの国として描かれているすべての権力によって象徴されている。これには、預言的にはソドムとエジプトから成るとされるフランス、北王国と南王国から成っていたイスラエル、さらにメディア・ペルシャ帝国が含まれる。ダニエル書第8章におけるメディア・ペルシャの二本の角は、その王国の角の一つが最後に現れることを示している。

そのとき、私は目を上げて見ると、見よ、川の前に二本の角を持つ雄羊が立っていた。二本の角はともに高かったが、一方は他方よりも高く、その高い方は後から生えた。ダニエル書 8:3。

メディアとペルシアの二本の角は地の獣の二本の角を表しており、したがって地の獣の角の一方はより高く、最後に生じなければならない。1798年の終わりの時に地の獣の支配が始まり、プロテスタントの角は、ウィリアム・ミラーに代表される預言者エリヤによってカルメル山へと導かれた。真の預言者と偽りの預言者の区別を明らかにする対決があり、それはカルメル山での試練において成し遂げられることになっており、その試練は1840年8月11日から1844年10月22日まで行われた。

ミラー派アドベンチズムは、米国のプロテスタント諸教派が教皇ローマに回帰してその娘教会となったのと同時に、神の摂理によって真の預言者として示された。1863年に、ミラー派アドベンチズムの真のプロテスタントの角は、背教的プロテスタントと同じ腐敗した聖書研究の方法へと戻ることによって、背教的プロテスタントと同じ交わりに復帰し、エリヤのメッセージを退けるといふ漸進的な働きを開始した。同時期に、米国の南北戦争が始まった。（なお、聖霊が退けられると別の霊が支配し、その結果は常に戦争である。）その国は文字どおりにも、政治的にも、そして預言的にも分断された。共和制の角は、その時点以降、二大政党間の激化する闘争のただ中に置かれることになった。

分裂の象徴ともいえる1863年、すなわち北と南の間の内戦のまさに中心の年以後、「共和の角」と「プロテスタントの角」にはそれぞれ二つの派が生じた。前者は民主党と共和党という二つの政党から成り、後者は日曜遵守派と安息日遵守派の背教的プロテスタントから成っていた。両方の角におけるこの二分は、キリストの時代にはサドカイ派とパリサイ派によって象徴されていた。一方は建国の原則を公然と拒み、他方はその原則を擁護すると称しつつ、結局はそれを人間の伝統や慣習に置き換えた。

2001年9月11日に、獣の像の試練の期間が預言的に開始され、それは日曜法、すなわちベルシャツアルの酒に酔った宴において頂点に達する。日曜法は、教会と国家の結合が完全に確立されたことを示すしるしである。その時点で、背教的共和主義と背教的プロテスタントという二本の角は一つの背教的な角となり、その時にダニエルは第三の角、すなわち第三の支配者、あるいは最後に生え、より高くなる真のプロテスタントの角とされる。なぜなら、その時こそ彼が旗印として高く掲げられるからである。

ヨセフとダニエルは同じ予言の系統にあり、行に行を重ねるように、すべての預言者が終わりの日々を指し示している。彼らはそれを見たとき、「七つの時」を共に認めた。イスラムの「東風」が城壁の下から忍び込んできており、彼らが「Future for America」が何であるかをベルシャツアルとファラオに解き明かしている間にそれが起きている。彼らはキリストの義の「緋の衣」をまとっており、それはキリストの血によってそのようにされた「白い衣」である。彼らは旗印として掲げられ、冠や金の鎖として表され、より高みに上り、最後に立つ第三の支配者となる。

次の記事では、ダニエル書第6章に進みます。

「その狂気の愚行の最後の夜には、ベルシャツアルとその貴族たちによって、彼ら自身の罪もカルデヤ王国の罪も極みに達した。もはや神の抑え止める御手も、迫り来る災いを退けることはできなかった。幾多の摂理を通して、神は彼らにご自身の律法への畏敬を教えようとしておられた。今やその裁きが天にまで達しつつあった者たちについて、神はこう宣言された。『われわれはバビロンを癒そうとしたが、彼女は癒されない』。エレミヤ51章9節。人の心の不思議なまでの頑なさのために、ついに神は取り消しのきかない宣告を下さざるを得なくなった。ベルシャツアルは倒れ、その王国は他の者の手に渡ることになっていた。」 『預言者と王たち』530頁。